

社会システム土木系学科

募集予定

2人

わたしの
総合型選抜

災害で気付いた、地域インフラを守る土木学の重要性

私が土木の分野を学びたいと強く思うようになったのは、2018年7月に発生した西日本豪雨災害がきっかけです。自宅のすぐ近所まで浸水被害が迫る中、土木関係の仕事に携わる父は出かけ、地域のインフラを守るため一晩中働いていました。私も少しでも人の助けになるようなことがしたいと思い、鳥大工学部を目指すことにしました。推薦入試も視野に入れつつ、まずは総合型選抜に挑戦しようと、高2の5月には決めていました。その夏に参加したオープンキャンパスでは、砂防ダムの構造に関する研究を見せていただき、受験へのモチベーションがアップ！また、女子高生のための説明相談会もあり、AO受験された先輩からお話を聞いたのが良かったです。

新聞は毎日チェック、幅広い知識＋多角的な視野で

願書作成と並行して1次面接の練習も進めていたけど、コロナ禍により中止となり、1次選考は願書のみで判定されることに。直接自分の口で伝えられない分、願書に思いを込めて、伝えたいことを全て書き込みました。2次の小論文は過去問題を使って練習。毎日新聞を読み、気になる記事を見つけたらノートに張り付け、自分の意見を書くことも。1つの意見に凝り固まらず、違う角度から見た意見も考えるようにと先生から良いアドバイスをもらったので実践しました。2年次からは専門科目が増えます。土木のコースへ進むなら力学が重要になってくるので、基礎となる部分をきちんと身に付けようと勉強中。災害に強い橋の研究ができるよう、これからも頑張っていきます！

2年

しばた かほ

柴田 佳歩さん（岡山県立勝山高等学校 出身）

MY
FAVORITE
"TOTTORI"

自然豊かな風景ときれいな夕日

家の周りを散歩しながら眺める、鳥取の自然豊かで素朴な風景は私の癒しになっています。鳥大からほど近い「湖山池」のほどりで見る夕日はとてもきれいで、心が落ち着きます。

全文は
Webで!

第2次選考

選抜のポイント、面接・論文等の出題例等

- 2022年度総合型選抜がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。
- 2023年度総合型選抜が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

全体を通して
求める力

社会システム土木系学科では、工学に関わる専門的な知識とともに、社会のしくみに関わる幅広い知識を持ち、安全で安心な社会の構築に貢献できるエキスパートの育成を目指しています。数学・理科の力とともに、高校時代に履修できるあらゆる科目や活動を通じて積極的に学び、社会のさまざまな課題について多面的にとらえるための幅広い教養を養ってください。

講義等理解力試験	講師(1名)が、本学科の教育内容や研究内容に関する講義(90分)を行い、その後、講義内容に関する筆記試験(60分)を行いました。
小論文	わが国のデジタル改革を推進するために、2021年9月1日、内閣にデジタル庁が設置されました。この背景には、わが国ではデジタル化が遅れている一方、未来の社会づくりにはデジタル化が不可欠であることがあげられます。また、このような内閣の動きにとどまらず、行政、民間を問わずあらゆる組織もデジタル化が必要と言われており、様々な取り組みが進んでいます。以上のような社会の動向に関して、「わが国ではなぜデジタル化が遅れたのか」「未来の社会づくりになぜデジタル化が不可欠なのか」の二点についての考えを述べるとともに、住みやすい都市や地域を実現するために、どのようなデジタル化の取り組みがありうるのかを60分間で論述するものでした(800字以内)。
個人面接	4名の面接官による、1人あたり15分の面接を行いました。
口頭試問	3名の試験官による、1人あたり15分の個人試問を行い、基礎学力(数学、英語)を確認しました。

●選抜方法と求める能力の関連

選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働性
2次(講義等理解力試験)	○	○	
2次(小論文)	○	○	
2次(面接)		○	○
2次(口頭試問)	○	○	

2023年度入試から「講義等理解力試験」に代わり、「プレゼンテーション」を実施します。プレゼンテーションの課題や実施方法等の詳細は、第1次選考合格者に、第1次選考の合格通知と共に文書で連絡する予定です。プレゼンテーションは5分程度で行っていただき、その後、質疑応答を行う予定です。